



# 二つの節目が八丈島に 春を呼ぶ

～フリージアまつり60周年と、ミス八丈島70代目へのバトン～

2026年3月20日。八丈島に本格的な春を告げる「八丈島フリージアまつり」が、記念すべき60周年を迎えます。エレガントな甘い香りとともに、白や黄色、赤や紫など色とりどりのフリージアが咲き誇り、畑一面を鮮やかに染めながら、島に春の訪れを報せてくれます。

そして今年もうひとつ、大きな節目があります。島の顔として親しまれてきた70代目の「ミス八丈島」発表会が、フリージアまつりの初日に行われることになりました。

フリージアまつりは、1967年に観光協会主催でスタート。八丈島の春を彩る花と香りを観光に生かそうという思いから始まり、歴代のミス八丈島もフリージアキャラバン隊の一員として長年PRを続けてきました。

今回の節目にあたり、フリージアまつりに携わってきた八丈島観光協会の田村真吾さん、そして1年8ヶ月の任期を終える69代目ミス八丈島の浅沼和海さんへお話をお伺いしました。



69代目ミス八丈島 浅沼和海さんに聞く 島のために奔走した1年8ヶ月

「実は、親戚の叔母が応募してくれていたんです」そう少し照れながら話すのは、69代目ミス八丈島の浅沼和海さん。

祖母には内緒にしていたため、夏まつりの舞台で名前が呼ばれた瞬間、客席で涙を流して喜ぶ祖母の姿があったといいます。その光景は、今でも忘れられない大切な思い出です。

任期中は、島内外のイベントへの参加や、Instagramでの情報発信などを通して、八丈島の魅力を伝えてきました。

「高校を卒業して上京したことがあったのですが、その時に、八丈島では当たり前だった夕日や星空が、実は当たり前じゃないんだと気づきました」

だからこそ、発信するときは、自分が一番好きな場所で写真を撮ることを大切にしてきたといいます。そこには、「自分が感動した景色を、そのまま届けたい」という想いが込められていました。

その裏には、少しずつ自分と向き合いながら重ねてきた努力がありました。

「正直に言うと、人見知りで、笑顔を作るのも得意じゃなかったんです。選ばれた直後のイベント写真を見ると、今とは全然違います」

緊張とプレッシャーの中、「早く終わってほしい」と思ったこともあったそうです。それでも、イベントを重ねるうちに、少しずつ気持ちは変わっていきました。

「毎回来てくださる来場者の方がいて、声をかけてもらえるようになって。気づいたら、イベントに参加するのが楽しくなっていました」

活動の中で、心に残っている出来事もあります。中学・高校時代の先生方が、都内で行われたイベントにサプライズで会いに来てくれたことでした。

「学生時代は結構ヤンチャだったので(笑)、まさか私がミス八丈島になるとは思っていなかったみたいで、とても驚いていました」

1年8ヶ月の任期を振り返り、浅沼さんはこう語ります。

「まさか自分が、こんなに大切な役割をさせていただけるとは思っていませんでした。ミス八丈島にならなければ、絶対にできなかった経験ばかりです」

多くの人に支えられてきたことへの感謝を胸に、最後のフリージアまつりを迎えます。

「フリージアは気温差によって、咲く時期が早まったり遅れたりします。そんな中で60年も続けていることは、本当にすごいことだと思います」

この時期は、海に目を向けるとクジラの姿を見ることがもできます。

フリージアの香りを楽しみながら、バスや車でクジラを探す——島ならではの春の過ごし方です。

「今年も、そして来年も、たくさんの方にフリージアまつりへ来ていただけたら嬉しいです」

## 八丈島観光協会 田村真吾さんに聞く 紡がれてきた60年の思い

「歴史あるフリージアまつりを、今年も開催できることに感謝しています」

そう話すのは、八丈島観光協会の田村真吾さん。

「今年から初日のオープニングセレモニーは、おじゃれホールで開催されます。新ミス八丈島の発表も、これまでの夏まつりから、フリージアまつりオープニングセレモニーでの発表に変更になります。新しく選ばれたミス八丈島には、今春にさっそく次の春に向けた写真撮影などが予定されています」

フリージア畑で撮影された写真は、次回のまつりを知らせる大切な一枚になります。「春の始まり」とともに、新しいミス八丈島の活動も動き出します。

「今年はオープニングセレモニーでの新ミス八丈島の発表に合わせて、特別企画も予定されています。詳細は、公式ホームページなどの情報公開を楽しみにお待ちいただけたらと思います」

田村さんは、フリージアまつりならではの魅力についても、こう話します。

「内地の方から、『桜の開花よりもひと足早く春を感じられるのが嬉しい』と言ってくることが多いです。フリージアまつり＝八丈島、というイメージは、旅行会社を中心に大変根付いており、若年層にも八丈島を知っていただく機会になっていると感じます」

会場では、毎年恒例のフリージアカフェがオープンし、花を眺めながら一息つく人の姿も見られます。近年は週末を中心にキッチンカーも並び、にぎわいが生まれます。



「花の鑑賞だけでなく、ゆっくりしてもらえたらいいな、という気持ちでカフェも営業しています」また、榎立踊りや八丈太鼓など、島の伝統芸能が披露されるのも、フリージアまつりの特徴のひとつです。

「来てくださった方に、島の伝統文化・芸能にも触れてもらいたい、という思いから始まったと聞いています」

PRについては、ミス八丈島とともに、ポスター制作や島外PR事業(キャラバン隊)での訪問、花束の贈呈など、直接人と人がつながる形を大切にしてきました。今年は、台風からの復旧・復興の年でもあり、メディア向けのプレスリリースやPRにも力を入れていく予定です。

最後に、田村さんはこう結びました。

「昨秋は台風の影響で、大きなイベントが中止になることも多くありました。その中で、今年も例年通りにフリージアまつりを開催できることを、本当にうれしく思っています。ぜひ多くの方に八丈島へ来ていただき、春の訪れを感じてほしいです」



取材後記

フリージアまつり60周年と、ミス八丈島70代目へのバトン。二つの節目を迎える今年の春は、これまで以上に特別な意味を持つものとなりそうです。

花を育て、まつりを支え、人と人をつないできた多くの想いが、今年も島に春を運んでくれることでしょう。

この春、フリージアの香りに包まれたフリージアまつりが、訪れる方それぞれの心に残る時間となることを願っています。